



第12回ウィルチェアーラグビー 日本選手権大会

第1回国際交流大会(韓国)



2010年12月10日～12日に千葉ポートアリーナにおいて日本選手権大会がありました。

プログラムに載っているルール説明を見ながらの観戦でした。コートはバスケットボールのコートを使用、ボールはバレーボール。そして1チーム4人で2チーム対抗である。車椅子にも特徴がありアタッカー（攻撃）用とブロッカー（守備）用があります。

ウィルチェアーラグビーは、四肢麻痺者等（患髄損傷や四肢の切断、脳性麻痺等で四肢に障害を持つ者）がチームスポーツを行う機会を得るために1977年にカナダで考案され、欧米では広く普及している車いすによる国際的なスポーツです。

クラスフィケーション（クラス分け）は筋力テスト、体幹機能テスト、動作の機能テストを実施し決定されます。障害の程度によりそれぞれ持ち点が付けられ障害の重い方0.5点から軽い方3.5点まで0.5刻みの7段階に分けられます。1チーム4人の持ち点も合計が8点以下で構成されなければなりません。

試合時間は、8分ごとのピリオドが4回。各ピリオド間には短いインターバルがあります。

車いす同士が思いきりぶつかり合い、時には転倒もあります。本当に四肢麻痺者のスポーツなのかと思うほど迫力があり、またレフリーの動きで試合がより一層盛り上がるように感じました。

障害者スポーツ指導者の皆さんも、まずは観戦からしてみてもいいのではないでしょうか。（広報：松浦春代）



天候の具合で、体の動きが違ってきます。体調管理も大変だけど、ぼちぼちしようと思います。そして、できるだけたくさんの障害者スポーツを紹介したいと思っています。

時間が許す限り私も観戦や取材に行こうと思います。今回の協議会だよりは、たくさんの方に協力していただきました。快く原稿を書いて下さった皆様ありがとうございます。また、写真の提供も心より感謝いたします。

ありがとうございます。

編集後記

広報部長より

2011

国際親善女子車椅子バスケットボール

大阪大会

2011年2月3日(木)～5日(土)

午前10時～

大阪市中央体育館

入場無料

障害者スポーツ指導者の

みなさん、是非観戦また応援に

きてください。



協議会だより

平成22年12月31日 第65号

発行・編集 大阪障害者スポーツ指導者協議会 広報部

大阪市東住吉区長居公園1-32 大阪市長居障害者スポーツセンター内

TEL 06-6697-1402 FAX 06-6697-8613

<http://www.v-aid.org/shidousya/>

★ふれあい水泳大会

鈴木 光一

9月23日にアミティ舞洲でふれあい水泳大会がおこなわれた。朝早くから電車やバスを乗り継いで、多くの選手や家族が集まってきた。この大会に何度も参加した人、初めて参加する人など様々な人が集まってきた。応援ができる観覧席は、開会式を迎えるころには人でいっぱいになっていた。緊張した面持ちで開会式に並ぶ選手、ニコニコしながら観覧席に手を振る選手、そわそわ落ち着かない様子の選手がいる。これから始まる競技のために、日ごろのトレーニングをがんばってきた選手がいる。その選手の気持ちがあるから、みんなの応援にも自然と熱がはいる。少しでもタイムがよければ選手も喜ぶし、ベストタイムが出たときなどはなおさらである。

ただ、大阪水泳協会の方が審判をしているのでルールもマナーも公式大会に準ずることを選手だけでなく家族などの関係者も知っておいてほしい。フラッシュを使用してのカメラ撮影は禁止であり何度も注意を呼びかけたが、観覧席からのフラッシュが光ることが度々あった。

選手が真面目に、一生懸命、競技に取り組んでいるのだから、関係者や家族など選手を見守る人たちにも選手と同じようにこの大会に取り組んでほしいと思う。それが選手たちへの励ましになり、ふれあい水泳大会のさらなる進化へとつながるのではないかなと思う。いままでも選手と大会関係者が一体となって、プールと観覧席が一体となってふれあい水泳大会は開催されてきた。

ふれあい水泳大会は、大阪が他府県に誇れる素晴らしい大会である。これからもふれあい水泳大会をみんなでサポートしていこう。

★近畿障がい者フライングディスク大会

審判員 吉田 邦夫

平成22年9月23日、第4回近畿障がい者フライングディスク大会がファインプラザ大阪で開催されました。当日は天候が悪く朝から豪雨で残念ながら、ディスタンス競技は中止となりました。選手の皆さんは今まで練習を重ねてきたのに本当に残念です。体育館でアキュラシー競技のみの開催となりました。近畿圏のみならず神奈川県からの参加者もあり89名の選手が集まりました。

素晴らしい選手たちで、10人の選手がパーフェクト記録を樹立達成できました。また、応援する人たちや役員達の大きな拍手で、さらに盛り上がりました。

順位決定戦では、手に汗を握る熱戦が繰り広げられました。会場全体が一喜一憂しレベルの高い大会になりました。表彰式には珍しい三角形のトロフィーで1位から3位まで表彰をしました。

また、役員関係者の皆さんもレベルが向上している事に驚き感動されていました。来年もより一層、成績が上がるように選手の皆さん頑張ってください。最後に大会をお手伝い頂いた競技役員、ボランティアの皆さまありがとうございました。



第 10 回全国障害者スポーツ大会 ゆめ半島千葉大会

2010 年 10 月 23 日(土)～10 月 25 日(月)

選手団	選手 延数	陸上競技			水泳			アーチェリー			卓球			フライングディスク			ボウリング			合計		
		金	銀	銅	金	銀	銅	金	銀	銅	金	銀	銅	金	銀	銅	金	銀	銅	金	銀	銅
大阪府	121	21	8	10	11	7	0	0	0	1	5	3	0	7	6	4	1	1	1	45	25	16
大阪市	76	10	10	4	6	4	3	1	0	0	3	2	1	2	2	0	2	2	1	24	20	9
堺市	36	11	2	0	5	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3	1	0	1	17	5	5

団体競技結果

競技名	優勝（金メダル）	準優勝（銀メダル）	3 位（銅メダル）
バレーボール（聴覚・男子）	東京都	大阪市	福岡県
バレーボール（聴覚・女子）	大阪市	千葉県	沖縄県
バレーボール（精神）	横浜市	大阪府	浜松市



ゆめ半島千葉大会に出場して

堺市卓球選手 中越 健太

今年 5 月末に行われた堺市障害者スポーツ大会で卓球競技に参加しました。優勝して 2 年ぶり本大会である「全国障害者スポーツ大会」の堺市選手代表に選ばれました。頑張りたいという気持ちと同時に、不安もたくさん抱えながら本大会を迎えました。

今年の全国障害者スポーツ大会は第 10 回目という区切りを記念に盛大に行われていました。また千葉県民の住民または児童生徒や大学生ボランティアから大いに歓迎してくれました。

卓球競技では、リーグ戦であり栃木県選手団と広島選手団と 3 人組でした。初戦は栃木選手団と試合し 3－1 で勝ちました。しかし、2 戦目、広島選手団に 2－1 とリードしていたのが、2－3 と逆転されてしまい準優勝となりました。卓球の練習不足が今回の試合結果につながってしまい、もっと練習をしなければならないと反省しています。

そのほか、私は大学院で障害児について研究しています。その中、視覚障害者や知的障害障害者または発達障害障害者と関わっていることから、大会を通して試合だけでなく障害児との交流を深めることができ、色々と勉強になりました。

最後に大会での悔しさをばねに、来年「おいでませ山口大会」に向けて、日々頑張っていきたいと思っています。本大会で応援してくれた堺市市民の皆さん、また関係の皆さん応援ありがとうございました。



スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・大阪大会に参加して

舞洲アリーナ（卓球・バドミントン） 久保 漣

11 月 5 日～7 日にかけて開催されたスペシャルオリンピックス夏季ナショナルゲーム・大阪大会にボランティアとして参加しました。

卓球とバドミントンの競技が行われた舞洲アリーナでの報道関係者の受付や撮影場所の管理、観客席でのフラッシュ撮影を規制する警備等を担当する報道班の班長という大役を受けることになりました。大会当日までは不安で胸を膨らませていました（笑）

『たくさんの一般ボランティアの方々に、せっかく貴重な時間を割いて頂いたんやから楽しんで仕事をし頂こう！まず自分が楽しもう！』そして分らないことは分かる人に聞けばええやん！という他力本願的な発想で気が楽になりました。

朝の班別ミーティングでは笑顔で「みなさん今日は楽しみましょう！分らないことはとりあえず班長久保に聞いて下さい」と言い【ボランティアの方々も分らない事があったときどうしたら良いのかということが一番の不安要因だったようです】分らないことは聞きまくれ作戦は報道班では功を奏し、「楽しくできたよ」と言って頂けたので胸を撫で下ろすとともに胸が熱くなりました。

2 日間の競技が無事終了し、万歩計を見ると 2 日間で 48,000 歩。足は棒になり疲れはピークに達しておりましたが、競技中や表彰式でのアスリート達のあの素晴らしい笑顔を見たら、疲れは吹っ飛び「あ～参加してよかった、またやりたい」と思いました。



競技会のゴール

『1 人ひとりのアスリートが日常のトレーニングプログラムで培った力を発揮し、晴れ晴れとした表彰台に立ちます。そして最終日にはチームが一つとなって閉会式に参列し、会場の人たちに大きく手を振って笑顔で新たな一歩を踏み出す勇気を実感します。』 ～全員が勝利者です～

競技と閉会式に感動

なみはやドーム（バレーボール・バスケットボール） 大谷三郎

11 月 7 日は寒い朝となったが、入場誘導の声にアスリート達は元気良く挨拶で応え、楽しそうに入場しました。大勢の一般ボランティア、団体ボランティアは時間まで観客席で待機しました。

各都道府県のアスリート達は、バスケットボールもバレーボールも技術と活力を出す白熱した競技を展開しました。

閉会式は大阪の代表のアスリートが感謝の言葉を述べました。閉会式の音楽が流れた。紙飛行機が場内いっぱい飛べられました。実行委員長より閉会の言葉と大阪大会から次の福島大会へと移され、アスリートの「ありがとう」の言葉が集まってきました。その後は、たくさんのアトラクション、パフォーマンスで盛り上がり、河内音頭でより一層元気づけられました。



写真提供
(c) Special
Olympics
Nippon



SOの競技会の特徴

- ①スペシャルオリンピックスの競技会では、予選落ちはありません。出場したアスリートは全員が決勝に進み、最後まで競技をやり終えた一人ひとりの健闘を称え全員が表彰されます。
- ②アスリートは予選、決勝を問わず常に全力で競技することが求められます。予選で全力を尽くさず、その結果に基づくディビジョニング（組み分け：性別・年齢枠・競技能力）により、決勝で上位に入賞したとしても失格になることがあります。これがオネストエフォートルールです。
- ③国や地域の競争という考えはなく、表彰式でも国歌や演奏や国旗の掲揚はありません。

第5回スペシャルオリンピックス日本・大阪大会に関わって

イーグルボウル（ボウリング） 松田 恭子

平成22年11月6日、晴天。ついに開催が目前に迫った当日、午前7時に会場入り、関係者はまだ2～3名しか来ていない。お天気とは裏腹に気持ちは不安で曇っている。ボランティアの面々が徐々に増えてきたが、まだ準備が十分できていない。アスリートのボウルを各レーンに運ぶ学生もまだだ。8時には来ているはずなのにどうしたのだろう。

アスリートが到着。それからは戦争のようだった。スタンバイしているのに開会式が始まらない、どうしたのかなと思っていたら、私が指示しないからだという。とにかく始めなければならないのでスタートのお願いをした。初めからこの調子だと今日一日どうなるのか、と不安が益々募った。会場内はとにかく狭い、アスリートだけは区別されたゾーンに居るが、報道、コーチ、一般客のゾーンの区別は床に貼られたテープと中途半端な長さのロープしかない。コーチはゾーンからはみ出ると違反になるので、しっかり注意しなければならない。学生ボランティアはそのルールを知らないのか、見過ごしてしまっている。

一日目は何とか終わることができた。二日目はトラブル続き、センターの早朝大会があってスタートが遅れ、学生ボランティアへの連絡ミスでスコアラー不足、マシントラブルでまた遅れ、成績結果も遅れる。

スタートで遅れているので後続も影響を受け、閉会式に遅れることが懸念された。しかしどうする事も出来ない。表彰式を待てずに帰路に向かったチームも出てきた。遠方から参加しているのに気の毒だった。ようやく1時間半遅れで表彰式が始まった。やっとの思いで閉会式会場へアスリート達を見送る。

アスリート達は笑顔で「有難う」、「有難う」と握手しながら退場していく。そんな姿を見ると大変だった思いも吹っ飛んでいった。

全国障害者スポーツ大会に参加して 堺市サポーター 匿名（フライングディスク）

今回初めて、全国障害者スポーツ大会に総務係として参加させていただき本当に貴重な経験となりました。

大会の数カ月前から選手の練習と一緒に参加させていただいていたのですが、真夏の猛暑の中、一生懸命になって練習している姿には本当に明るくて前向きに頑張っておられ練習に参加させていただく度に、私の方がとても勇気づけられました。

試合本番の日、召集時間ぎりぎりまで必死になって練習をしている選手の姿を見て結果は何位でも構わないから、これまで諦めずにずっと練習し続けてきたことを全選手が試合に発揮できるようにと心から祈りました。

念願のメダルを獲得できた選手も、残念ながらできなくて悔し涙を流した選手もいましたが、選手の方々の頑張りは金メダルです。試合後の表彰台に並ぶ選手の姿を見て、言葉には表せないほどの感動で思わず涙してしまいました。

メダルを獲ることももちろん大切ですが、この全国大会に向けてこれまで頑張ってきたことに本当の意味があると感じました。

選手の方々と一緒に過ごした6日間は本当に内容の濃い6日間となりました。

様々な工夫をしながら日常生活を送られていると分りました。私は手話ができないので、手話をされている選手となかなか思うようにコミュニケーションを取れずとても残念でした。前々から手話で話してみたいと思っていたので、今回の経験をきっかけに手話の勉強を始めることにしました。手話をされている方とお話する次の機会までに少しでも手話をマスターできるように頑張りたいと思います。貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。



ゆめ半島千葉大会に参加して

千葉県サポーター 匿名

私は、全国障害者スポーツ大会に堺市選手団のお手伝いやお世話をさせて頂きました。

障害者スポーツを見たのは、初めてであり今までは全く関心もありませんでした。

それは私が健常者であり障害を持っていないからだと思います。

実際に競技を見て思ったことは、健常者も障害者も何ら変わることなく練習してきたことを競技で発揮し、また見ている者に勝ちたいという気持ちが伝わるほど真剣でひたむきに一生懸命でした。

今回参加させて頂き感じた事は、もっと多くの人々が障害福祉に参画し取り組むべきだと感じました。そのための機会を設けたり人を集めたりというのは大変なことなのは理解しています。しかし、大勢の意識を変えるには必要不可欠な機会だと思います。

現に私は多くの選手と触れ合い、接して手話を学ぼうと思いました。

唯一の心残りが、言語障害を持つ方々との会話のキャッチボールが上手く出来なかったからです。

何をするにしてもきっかけは何でもいいと思います。私の場合は障害者スポーツでしたが、私の中の健常者と障害者の意識の壁はなくなりました。

スポーツというのは、行動や取り組む姿勢、喜びや悔しさを表す表情で相手に色々な事を伝えられるので、今以上の障害者スポーツの普及を期待しています。

スペシャルオリンピックス大阪夏季大会の
ボランティアをして

大阪城ホール・なみはやドーム 近記 正規

11月5日～7日の3日間大阪府下各所で競技が繰り広げられました。私は開会式と閉会式の報道受付をボランティアとして担当しました。

11月5日の開会式は天候も良く、大阪城ホールでとりおこなわれました。私は入口で報道各社や地域の報道担当者の受付を待ち構え待機していたので、大会会場の中の状況はわかりませんでしたが、各都道府県のアスリート入場の際の大きな拍手や来賓あいさつなど盛り上がりは聞こえてきました。

11月7日なみはやドームでの閉会式ですが担当は開会式と同じ報道受付でした。

閉会式に集まってくるアスリート達はみんな明るい笑顔で意気揚々と会場に次々と到着してきました。担当の場所は会場の比較的によく見える場所にいましたので。会場の進行状況も良く見え各アスリートの嬉しそうな様子が手に取るようにわかりました。

アトラクションではアスリート達がダンスの輪の中に入り楽しそうでした。

私自身が障害者でいつもボランティア受ける側にいますが、出来ることを少しずつ活動していこうと思いました。

2010年 第5回スペシャルオリンピックス日本

夏季ナショナルゲーム・大阪

「なにわに集え 挑戦者！ 夢と勇気をもって！」

～自分へチャレンジ、明日へチャレンジ～

2010年11月5日(金)～7日(日)

アスリート宣誓

スポーツルール第1章

「Let me win. But if cannot win, let me be brave in the attempt.」

「私に勝利を与えたまえ もし、叶わぬなら挑戦することをたたえたまえ」

「わたくしたちは、精一杯力を出して、勝利をめざします。
たとえ、勝たなくても、がんばる勇気をあたえてください」

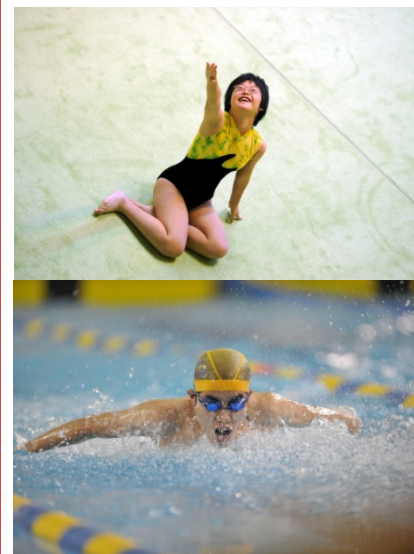
(スペシャルオリンピックス日本が国内大会で行う宣誓)

写真提供

(c)Special

Olympics

Nippon



スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・大阪 裏方として参加

アミティ舞洲（水泳） 松本 晃

パラリンピックという言葉の由来は、車椅子の人たち（下半身麻痺者）のことをパラプレジア（Paraplegia）と言うことからパラプレジアとオリンピックとの合成語で下半身麻痺者のオリンピック『パラリンピック』と命名されたそうです。

東京パラリンピックを契機として、日本において障害者スポーツが広く認知されるようになり、普及していきました。一方、今回ボランティア協力したスペシャルオリンピックス日本という大会は、1962年に故ケネディ大統領の妹ユニス・ケネディ・シュライバー夫人が、自宅の庭を開放して開いたデイ・キャンプが始まりです。実は彼女の姉ローズマリーが知的発達障害者だったのです。1968年にジョセフ・P・ケネディ Jr.財団の支援により組織化され、「スペシャルオリンピックス」となり、全米から世界へと広がっています。

今回、私が担当したのは競技会場運営責任者という仕事で、競技だけでなく会場の中で起こるさまざまな事態に対応しなければならず、思っていたよりも大変でした。

今まで自分自身が経験したボランティアは競技ボランティアが多く、指示された事をこなしていれば特に問題は起こりませんでした。今回は色々な事態に対応し解決していくのですが、慣れない事もあり対応しきれない状況にしばしば陥りました。しかし不思議なもので、そういう状況になると誰か（ボランティアリーダーや施設の職員さん）が助けてくれました。顔見知りの人、初めて会う人、この大会があったからこそボランティアで支え合い競技を終えることができました。

また、アスリート達も生き生きと競技していて大変楽しそうでした。

大会前日の準備から3日間、大変でしたが非常に有意義な良い経験をさせて頂きました。